

めぐみイエス・キリスト教会

2019年12月15日(日)第三アドベント礼拝
週報「通算第485号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年12月15日 第三アドベント礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌79「あめには栄え」 p. 108
- 【交読文】 詩篇第149篇 旧約聖書 p. 968
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌75「神の御子は」 p. 102
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉にかえろう」
- 【聖書朗読】 **マタイの福音書1章18節～25節(新約p. 1下段)**
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《ヨセフの決意》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝禱後奏】

●ポイント1. 受胎告知を受けたマリヤの取った行動とは？

※ルカの福音書1章36節～40節および56節「エンカレム」(新約p.97下段)

1:36 「ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。

1:37 神にとって不可能なことは一つもありません。」

1:38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から

去って行った。

1:39 そのころ、マリヤは立って、山地にあるユダの町に急いだ。

1:40 そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。

1:56 マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして、家に帰った。

●ポイント2. 「正しい人」夫ヨセフの取るべき二つの選択とは？

※申命記22章23節～24節「婚約期間中において」(旧約p.313下段)

22:23 ある人と婚約中の処女の女がおり、他の男が町で彼女を見かけて、これと一緒に寝た場合は、

22:24 あなたがたは、そのふたりをその町の門のところに連れ出し、石で彼らを打たなければならない。彼らは死ななければならない。これはその女が町の中におりながら叫ばなかったからであり、その男は隣人の妻をはずかしめたからである。あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。

※申命記24章1節 「離縁状を書いて去らせる」(旧約p.315下段)

24:1 人が妻をめぐって、夫となったとき、妻に何か恥すべき事を発見したため、気に入らなくなった場合は、夫は離婚状を書いてその女の手に渡し、彼女を家から去らせなければならない。

●ポイント3. ヨセフの決意とは？

※イザヤ書7章14節「インマヌエル」(旧約p.1042下段)

7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

◎マリヤ(ミリアムのギリシヤ語音読み)

二世紀の伝承では、父は金持ちヨアキム、母は不妊の女アンナであった。ヨアキムの四十日間の断食、アンナの熱心な祈りに神が答えられ奇跡的に授かった。六ヶ月で七歩歩み、三才で神殿に捧げられ、十二才の時、祭司ザカリヤへの天使告知により、ユダヤの男子からくじ引きでヨセフと婚約することになった。ヨセフもマリヤもダビデ部族の出身であった。ヨアキムとアンナには、マリヤの後に、次女サロメが与えられた。

◎先週のメッセージの概要【ほかの多くのしるしをも】

《ヨハネは20章最後に、『この書には書かれていないが、まだ他の多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。』と注釈しています。ヨハネは、福音書に自身が選び抜いた「七つのしるし」を記載しました。

最初のしるしは、「カナの婚礼」において、水を葡萄酒に変えると言う奇跡でした。これは、ご自身が創造主である神様と言うしるしです。

二度目のしるしは、カペナウムに住む王室役員の息子のいやしです。これは命の君であって、死から命へと移すことが出来るというしるしです。

三度目のしるしは、ベツサイダの池の38年間も患っていた病人のいやしです。これも命の君のしるしであり、いやし主であるということです。

四度目のしるしは、「五千人の給食」の奇跡です。これはイエス様ご自身が、人々に、霊的命を与える生けるパンであると言うしるしなのです。

五度目のしるしは、ガリラヤ湖において、イエス様が水の上を歩くと言う奇跡です。これは、すべてを支配しておられる主であるということです。

六度目のしるしは、生まれつき目が見えなかった青年のいやしです。これは、ご自身こそが、「まことの世の光」であると言うしるしなのです。

そして七度目のしるしが、ラザロのよみがえりです。しかもこの奇跡はヨハネにしか記載されてはおりません。主は命を握っておられるのです。

この「七つのしるし」以外に、まだ他の多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた、とヨハネは言うのです。そのことは、ヨハネがそのしるしと奇跡のまことを目撃者であることを、証しているのです。

次にヨハネは、「これらのことが書かれた」理由を述べています。それは、主イエスを直に見た最後の証人として、知らない世代へのメッセージであり、『イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じる為であり、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得る為である。』と締めくくっています。この「いのち」こそが、「永遠のいのち」なのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は12月22日(クリスマス礼拝)です。また次回「聖書の学びと祈り会」は、12月18日(水)に行ないます。12月29日は感謝礼拝と食事交わり会となります。1月1日(水)「聖書の学びと祈り会」はお休みします。

